

富山高等専門学校

# 同窓会 会報



National Institute of Technology,  
Toyama Alumni Association

## Vol.4

2024年3月発行

編集・発行 富山高専同窓会  
同窓会HP/[nc-toyama-dousoukai.jp](http://nc-toyama-dousoukai.jp)



右上 志峰祭 11月11日、12日に本郷キャンパスにて開催  
右下 「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023」  
左 練習船若潮丸に七尾市への支援物資の積み込み



挨拶 | 定期総会 | 退職教員からのメッセージ  
近況報告 | 新理事紹介 | 同窓会事務局からのお知らせ

メールアドレスの登録をお願いします  
詳しくは同窓会HP「お知らせ」をご参照下さい。

## 会長挨拶

### 人生は試練の連続

富山高等専門学校同窓会長

I17 稲積 佐門



同窓会会員の皆様、こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。

まずは、1月1日に発生した能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早く復旧復興されることを祈念しております。

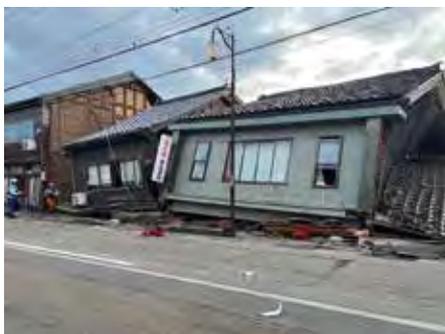
さて、昨年5月からコロナ感染症が5類となり、様々な活動が活発化した今年度でしたが、1月1日に発生した能登半島地震により、多くの方が被災しました。石川県ほどの被害ではなかったとはいえ、富山県内各地や私の住み暮らす氷見市においても道路の破損や家屋の倒壊、住宅地の液状化など、かなりの被害があり、すべての復旧にはまだまだ長い年月がかかると思いますが、多くの方々に支援していただきながら、この災害をみんなの力で乗り越えていきたいと思っております。

災害は、忘れた頃にやってくる。昔から富山県は地震の少ない県だと聞くことが多々ありました。市の防災計画などもしっかりと整備はさ

れていましたが、本当に未曾有の災害に対してはまだまだ準備不足だったのだと言うことを痛感させられた災害でした。地震の直後、テレビでは津波警報が流れ、すぐに避難するようにと報道でも流れました。すぐに高台の避難場所へ避難をしましたが、途中から渋滞で車が動かなくなりました。本来であれば、津波に対する避難は徒歩が原則ですが、パニックになると冷静な判断ができませんでした。普段からもっと防災意識を高めるために真剣に取り組む防災訓練を定期的に行うことが必要だなと感じました。今回の災害を教訓にし、日頃の備えを怠らないようこれから生活していこうと思います。

コロナ感染症に始まり、次は能登半島地震と、試練の連続ではありますが、乗り越えられないものはないと信じ、これからの同窓会活動も皆様と共に進めてまいりますので、お力添えのほどをよろしくお願い申し上げます。

最後に同窓会会員の皆様のご多幸ご健勝を祈念申し上げます。



上：一階が完全に潰れた商店

中：走行中陥没した道路に落ちた軽トラック

右：外壁が崩れた家屋



## 学校長挨拶

### スタートアップ教育環境整備事業 － 富山高専の最近の取組み －

富山高等専門学校校長

國枝 佳明



富山高専の最近の取組みについて、一部ではありますが、本紙面をお借りしてご紹介させていただきます。

日本国政府は2022年を「スタートアップ創出元年」と定め、11月には「スタートアップ5か年計画」を発表しました。本校は、文部科学省が募集する高専スタートアップ教育環境整備事業に「地域のウェルビーイング推進を支える起業人材育成につなげる連携体制の構築」と題した事業提案をし、採択されました。

まず、本郷キャンパスの共通棟2及び射水キャンパスの専攻科棟に起業家工房を設置し、設備を導入して試作品を製造できるようにしました。また、両キャンパスのほぼ中間に位置する富山市蓮町にある県の創業支援センター：SCOP TOYAMAに富山高専サテライトオフィスを設け、以下を実施しています。

- ①入居スタートアップ企業との交流
- ②スタートアップ企業との共同研究立ち上げ
- ③学科横断の起業アイデアの打合せ・調整
- ④スタートアップセミナーなどイベントの実施
- ⑤スタートアップアイデアの発表

これらの活動を通じて、学生達はスタートアップ関連の必要な内容について、理解することができると考えます。また、スタートアップ事業における学生生活の支援を行うこととし、学生が主役となる新

しい技術やシステム、ビジネス創生につながる取組みに対して経費的な支援を行っています。また、高専GCON、高専DCONなどのコンテスト応募につながる取組みについても積極的に支援することとしています。

一方、限られた特定の学生に対するスタートアップ支援だけでなく、全学生に対するFor all型の教育を実施しています。具体的には

- (1) Ti-Team (産学連携教育)
- (2) スタートアップ演習・講義
- (3) 県内外の工場見学、創業実験実習
- (4) 課題発見・課題解決型インターンシップ
- (5) 起業・創業関連コンテストへの挑戦
- (6) 課題発見・課題解決型卒業研究・特別研究など

各学年で、あるいは在学中を通じてこれらを実施しています。これらの活動を行うことにより、学生たちにスタートアップマインド（起業家精神）を身に付けていただき、地域に根ざした新産業創出、企業内新事業の立ち上げなどに関わる人材の育成を目指しています。



図：富山高専の行うスタートアップ教育環境整備事業

## 卒業生へエール!

### 卒業生の皆様へ

富山高等専門学校同窓会長 稲積 佐門

(代読 同窓会理事 K13 田嶋 雄太)

卒業生の皆さん。本日は御卒業、誠におめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝いを申し上げますと共に、國枝校長先生、ならびに諸先生方のご功勞に対し、改めて敬意を表したいと存じます。昨年5月からコロナ感染症が5類となり、様々な活動が活発化した今年度でしたが、1月1日に発生した能登半島地震により、多くの方が被災しました。石川県ほどの被害ではなかったとはいえ、県内各地や私の住み暮らす氷見市においてもかなりの被害があり、全ての復旧にはまだまだ時間がかかりますが、多くの方々へ支援していただきながらこの災害をみんなの力で乗り越えていきたいと思っております。卒業生の皆さんも新しいステージであらたな人生を歩み始めることで、楽しい事だけではなく、今回のような困難に直面することがあるかもしれませんが、これまで高専で培ってきた知識や経験を活かせば乗り越えられないものはありません。これからのみなさんの明るい未来は自分たちの手でつかみとらなければなりません。頼もしい次代の担い手としてのご活躍を期待しております。

さて、富山高等専門学校は平成21年10月に富山工業高等専門学校も富山商船高等専門学校が統合再編され、6学科校として設置されました。それまではそれぞれの学校の同窓会（ほんごう会、北斗会）が同窓会活動を行ってまいりましたが統合後10年を迎えた令和元年10月に統合後の卒業生とほんごう会理事、北斗会理事により設立総会、理事会を開催し、富山高等専門学校同窓会を設立しました。これにより、富山高専の在学生および卒業生の同窓会は富山高専同窓会に一本化することとなりました。

新しい同窓会がスタートしたタイミングで、新型コロナウイルスが蔓延したことにより、いまだ思うような活動ができていない状況が続いておりますが、それでも少しずつ同窓会としての活動を進めています。主な事業としては

#### ・同窓会報の発行

ほんごう会、北斗会は同窓会員相互の広報活動の一環として毎年会報（冊子）を発行し、同窓会



代読する田嶋雄太理事 (K13)

に登録されている会員住所に送っています。富山高専同窓会では冊子体ではなくWebによる会報の発信を行っています。今年の3月末には第4回の会報を発信する予定ですので卒業生の皆さんにも是非ご覧になってください。

#### ・同窓生の名簿の管理

同窓会員の名簿については、個人情報保護の観点から会員名簿(冊子)の頒布は行っていません。しかし、同窓会は卒業後の会員の消息を把握し、卒業生相互および同窓会・学校間の連絡が取れるように名簿の更新と管理の体制を構築したいと考えています。そのため卒業年度・学科ごとのネットワークを集約し、ほんごう会・北斗会と連携して同窓会員の名簿の更新と管理を行います。今年度は名簿管理に関する契約まで進んでいますが本格的な運用までもう少しかかるかと思っております。

#### ・卒業生、在学生への支援

学校行事への支援のほか、同窓会および本校技術振興会（本校のサポート企業）と連携して、（卒業後・進学後の）就職関係の情報提供、教育講座の開設等を検討しています。

以上の事業はあくまでも最低限取り組む事業であり、富山高専同窓会はまだまだ若い同窓生の会でもありますので、これから若い同窓生らしく、皆様と共に色々な事業を考えて新しい取り組みにチャレンジしていければと考えておりますので卒業生の皆様には、是非ともこれからの同窓会活動に参加、協力して頂きたいと思っております。

最後になりますが、これからそれぞれの道を行くこととなりますが、皆さんが個々の道でご活躍されること、また、一緒にこの富山高専同窓会を盛り上げて頂けることを祈念し私からのお祝いとお願いのメッセージに代えさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和6年3月12日 オーバードホールにて

## 令和5年度 富山高等専門学校同窓会

# 定期総会

日時 令和5年7月31日(月) 19時00分～  
● Microsoft Teams によるリモート

令和5年度 富山高等専門学校同窓会定期総会を、令和5年7月31日(月)19時00分からMicrosoft Teams によるリモートで開催しました。

はじめに稲積同窓会長と國枝校長よりご挨拶を頂き、次に佐瀬副校長より母校近況報告についてお話を頂いたあと議事に入りました。予定の審議事項はすべて承認されました。



國枝校長 佐瀬副校長 稲積会長  
令和5年度富山高専同窓会定期総会Web会議の様子

### 次第

1. 開 会
2. 会長挨拶 稲積佐門会長
3. 来賓挨拶 國枝佳明校長
4. 母校近況報告 佐瀬直樹副校長
5. 議 事

### 審議事項

- (1) 令和4年度事業報告(案)について
- (2) 令和4年度決算報告(案)について
- (3) 令和4年度会計監査報告について
- (4) 会則の改正(案)について
- (5) 役員人事(案)について
- (6) 名簿管理システムについて
- (7) 令和5年度事業計画(案)について
- (8) 令和5年度予算(案)について
- (9) その他

## 総会資料(抜粋)

### ○令和4年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告

- |          |  |
|----------|--|
| 令和4年4月1日 | 入学式に出席(稲積会長)   |
| 4月14日    | 3同窓会長の新校長訪問(稲積会長)  |
| 5月4日、13日 | 令和3年度会計監査を実施(河村監査、山崎監査)  |
| 6月14日    | 第1回理事会を開催(Web会議)   |
| 7月26日    | 第1回総会を開催(Web会議)  |
| 9月27日    | 商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明(稲積会長、水谷理事、金山理事) |
| 11月4日    | 富山高等専門学校技術振興会理事会・総会に出席(稲積会長)                                   |
| 11月16日   | 高専制度創設60周年記念式典・祝賀会に出席(稲積会長)                                    |
| 令和5年3月8日 | 新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事、中島理事)                               |
| 3月10日    | 卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明(稲積会長)                         |
| 3月29日    | 第2回理事会を開催(Web会議)   |
| 3月31日    | 同窓会会報をホームページに掲載  |

富山高等専門学校同窓会会則一部改正新旧対称表

改正後	改正前
富山高等専門学校同窓会会則	富山高等専門学校同窓会会則
制定 令和元年10月19日 一部改正 令和3年 9月10日 <u>一部改正 令和5年 7月31日</u>	制定 令和元年10月19日 一部改正 令和3年 9月10日
第1章 総 則	第1章 総 則
(名 称)	(名 称)
第1条 本会は、富山高等専門学校同窓会と称する。	第1条 本会は、富山高等専門学校同窓会と称する。
(所在地)	(所在地)
第2条 本会の本部は、富山高等専門学校校内に置く。	第2条 本会の本部は、富山高等専門学校校内に置く。
(省 略)	(省 略)
(役員の選出)	(役員の選出)
第8条 第6条の役員は、それぞれ次の方法で選出し、会長、副会長、理事（兼事務局長）、理事、監査は、総会の承認を受ける。	第8条 第6条の役員は、それぞれ次の方法で選出し、会長、副会長、理事（兼事務局長）、理事、監査は、総会の承認を受ける。
(1) 理事および監査は、理事会により正会員から選出する。	(1) 理事および監査は、理事会により正会員から選出する。
(2) 会長、副会長は、理事の互選により選出する。	(2) 会長、副会長は、理事の互選により選出する。
(3) 理事（兼事務局長）は、会長が理事より委嘱する。	(3) 理事（兼事務局長）は、会長が理事より委嘱する。
(4) 顧問は、富山高専の現旧教職員、本会役員経験者および富山高専の支援組織代表に会長が委嘱することができる。	(4) 顧問は、富山高専の現旧教職員、本会役員経験者および富山高専の支援組織代表に会長が委嘱することができる。
(5) 会長は任務遂行のため富山高専 <u>教職員</u> のうちから若干名を委嘱することが <u>でき、理事に指名することもできる。</u>	(5) 会長は任務遂行のため富山高専 <u>職員</u> のうちから <u>事務員</u> 若干名を委嘱することができる。
(省 略)	(省 略)
附 則	附 則
(施行期日)	(施行期日)
この会則は、令和3年9月10日から施行する。	この会則は、令和3年9月10日から施行する。
<u>附 則</u>	
<u>(施行期日)</u>	
<u>この会則は、令和5年7月31日から施行する。</u>	

## ○役員人事（役員の改選）

### 【理事退任】

国3 七軒 彩香  
制1 畑 智貴  
国1 赤濱 七菜  
国1 井波 沙依  
NE22 小川 紗貴  
C化学24 中島 栄次

※ その他の理事は留任

### 【理事就任】

富山高等専門学校 副校長 佐瀬 直樹  
E15 佐藤 圭祐  
N82 金山 恵美  
国7 宮下日向子

## ○名簿管理システムについて

富山高等専門学校同窓会名簿管理システムについては、沼津高等専門学校同窓会の名簿管理システムにおいて実績のある株式会社アーティスティクスに依頼する。

各自が設定するID/PWによりログインすることにより、本人情報の更新や公開・非公開を設定できるようにする。また、今まで同様に名簿の冊子等の頒布は行わない。

なお、費用は初期投資として95万円程度その他、年間利用料金が60万円程度の予定である。

## ○令和5年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画

令和5年 4月 4日	入学式への出席（稲積会長）
5月 9日、29日	令和4年度会計監査を実施（河村監査、山崎監査）
6月13日	第1回理事会を開催（Web会議）
7月31日	第1回総会を開催（Web会議）
9月27日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明（稲積会長）
11月	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会への出席（稲積会長）
令和6年 3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明
3月	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明（稲積同窓会長）
3月	下旬同窓会会報を発行
3月	下旬名簿管理システムの導入

## 令和6年度 定期総会 審議事項(予定)

### 令和5年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告(案)

令和5年 4月 4日	入学式に出席(稲積会長)
5月 9日、29日	令和4年度会計監査を実施(河村監査、山崎監査)
6月13日	第1回理事会を開催(Web会議)
7月31日	第1回総会を開催(Web会議)
8月 2日	3同窓会長と富山高等専門学校長との面談(稲積会長)
9月27日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明 (稲積会長、水谷理事、金山理事)
11月 2日	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会・交流会に出席 (稲積会長)
11月 6日	第2回理事会を開催(Web会議)
令和6年 3月 7日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明 (中島先生、金山理事)
令和6年 3月12日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明(田嶋理事)
令和6年 3月31日	同窓会会報をホームページに掲載

### 令和6年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画(案)

令和6年 4月	入学式に出席
4月	令和4年度会計監査を実施
開催日未定	第1回理事会を開催(Web会議)
開催日未定	第1回総会を開催(Web会議)
9月	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明
11月	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会に出席
令和7年 3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明
3月	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明
3月下旬	同窓会会報をホームページに掲載

## 母校近況



令和5年度  
射水キャンパス学生会長  
商船学科 4年  
坂井 雅空

### コロナ禍を乗り越えて

今年度は新型コロナウイルスが第5類となり、今までの3年間よりも自由度の高い行事を行うことができました。特に、今年は、球技大会を春季と秋季で二回行うことや、カッターレース大会で校内を使った謎解きスタンプラリーを開催し、より学生が楽しいと思えるような行事を作りました。

また、私個人の活動として、学生会の風通しを良くするために、行事前後でアンケートを行い、改善点やアイデアを集め、行事の質の向上に努めました。これにより、行事に対する、学生の満足度や不満点を数値や意見で得ることができ、成果と課題をより具体的に得ることができました。

### 球技大会

5月23日と10月17日に球技大会を開催しました。今年は例年と異なり、春季と秋季の二回開催でした。より多くの学生が同じ競技で楽しめるようにと借り物競争を取り入れ、ルールの見直しを行い工夫を凝らして運営を行いました。その甲斐もあり、行事後のアンケートで、8割強が楽しかったと回答してくれ、笑顔の絶えない、行事になりました。

また、今年から、行事ごとにHPを製作し、競技の進行状況をリアルタイムで更新することにより、競技の円滑な進行を図りました。



アルティメット



ドッジボール

### カッターレース大会

7月6日にカッターレース大会を開催しました。本年のカッターレース大会はカッター競技に加え、校内で謎解きスタンプラリーを開催しました。その狙いは、競技ごとの空き時間も楽しく過ごせるようにすることと、普段は入らない、他学科の専門教室に謎解きを配置することで、富山高専をもっと知ってもらうことでした。

また、カッターレース大会開催中に校内でかき氷屋を開きました。天気が良いこともあり、最終的にはかき氷は完売しました。かき氷で出た利益は学生会行事の景品に回すことで、イベントごとの景品を豪華にすることができました。

あいにく強風でカッター競技は中止となったものの、校内謎解きスタンプラリーのおかげもあり、最後まで実りのある、行事を作ることに成功しました。



7月6日 カッターレース大会

## 母校近況

令和5年度  
本郷キャンパス学生会長  
電気制御工学科  
安田 翔



今年度の学生会活動は既存行事の改善と新たな試みへの挑戦に力を入れました。新型コロナウイルス感染症の脅威が減少したことを機に、既存行事を対面での実施に戻し、既存の形より改善しました。特に6月に行った北陸

地区高専大会壮行会では、選手の登壇と校歌斉唱を復活させることができ、学生全員で選手たちを激励しました。

また、昨年度から年度内に2回開催するようになった校内球技大会ではwebアプリケーション「SportsDay」を有志学生が開発し、球技大会運営に利用しました。このアプリはスマホ1台で試合や担当する審判の時間を可視化することが出来ました。これによりこれまで膨大な時間かかっていた集計の効率化や競技会場の印刷物の削減など作業時間の削減が出来ました。これにより従来の球技大会より潤滑な運営が可能となりました。

新たな試みとしては、校内の省エネ活動に取り組みました。放送や掲示物を用いて学生に節電の呼びかけを行ったほか、先述した「SportsDay」のように学生会活動の資料をデジタル化し、印刷物を削減しました。この活動は学生にあまり認知されていなかったことなどまだまだ課題が残る形となりました。来年度この活動がどのように展開されていくのが楽しみです。

学生会長個人としては、学生会役員の確保や活動可視化に取り組みました。特に下級生には学生会活動の紹介と勧誘を行いました。私自身、低学年の時に学生会が何を行っているのかほとんど知りませんでした。学生に活動を認知させることこそがやる気のある人員の確保や学生会活動の発展につながると感じ、この活動を行いました。今年度集まった役員的人数が過去最多クラスとなったことや行事が全て問題なく進めることが出来たことがこの1年の大きな成果であると自負しております。

## 志峰祭

11月11日、12日に本郷キャンパスにて志峰祭を行いました。

実に4年ぶりとなる2日間での実施となりました。



志峰祭

当日は惜しくも天候には恵まれませんでした。学外からも大勢の方にご来場いただきました。

文化部や各クラスの個性あふれた展示や新たな照明器具を用いたステージ企画とバンドライブなどで当日は大いに盛り上がりました。

# トピックス

## Ⅰ 能登半島地震被災地への支援物資の輸送

### 練習船若潮丸を活用した被災地支援

練習船若潮丸船長 N82 金山 恵美

令和6年1月1日の能登半島地震で被災し断水が続く地域の災害支援を目的として、校内の教職員から支援金を募り購入した飲料水約5トンを、1月27日(土)練習船若潮丸を活用して七尾市に届けました。支援物資の練習船若潮丸への積込には、商船学科の有志の学生も協力しました。



練習船若潮丸からの支援物資の搬出（七尾港）



支援物資の移送



七尾港に向け出航する若潮丸。

## 立山のごとく凛々と

機械システム工学科 高橋 勝彦



平成元年に企業から富山工業高専金属工学科へ赴任して、令和6年に富山高専で定年を迎えます。

赴任直後のころは、エネルギーを持って余し、爆発させたい学生が数多くいました。写真1は、その頃の運動会の棒倒しです。今ではありえませんが、監視役の先生たちがいるにもかかわらず、学生間の殴り合いは当たり前。棒を守り、棒を倒し（殴り合い）に行ったのが金属工学科5年生で、このクラス担任が私です。運動会中は、ほとんど見かけないのに、なぜか棒倒しと騎馬戦が開始する直前に全員出席。運動会以外にも、数多くの校則違反や交通事故などで問題ばかり起こす学生たちばかり。でも、今でも自慢のクラスです。クラスの団結が強く、入学した学生が誰一人欠けることなく全員卒業した富山工業高専で初めてのクラスです。

クラブ顧問は、卓球部、女子バレーボール部、野球部、バドミントン部を担当しています。卓球のルールも知らないのに全国大会に卓球部員を引率し、まだオープン競技だった女子バレーボールの全国大会に参加するために部員を引率しました。競技判定に不服を言ったら、イエローカードを出され、部員からダメ出しをもらうような頓珍漢な顧問です。

写真2は、本郷キャンパス専攻科棟（旧金属工学科・環境材料工学科棟）から見える剣、大日と立山連

峰です。初春の風景です。毎年、学生が入学し卒業していく。時の流れとともに学生たちの気質は変わり、学生への対応はそれに合わせて変わっています。写真1の運動会が、令和では平和的な球技大会に変わっているのが例の一つです。ですが、マイノリティの高専や高専の学生がやるべき根本は、昔も今も変わらないと考えています。それを毎日のように思い起こさせ、コントラストをつけてくれるのが、いつも変わらない立山連峰です。

金属工学科は平成4年に環境材料工学科へ改組し、平成25年に統廃合しました。環境材料工学科の最後の学科長であった私としては、卒業生たちが振り返る思い出の場所を無くしてしまったことに対して、申し分けなく思っております。しかしながら、科学・工学の進歩とともに、数年前の先端技術は必ず陳腐化します。改組や統廃合は、今と未来の技術に合わせて行ったものをご理解してください。

あつという間でした。自分の好きなことができる環境を求めて、幾つかの職場を転職しましたが、10代後半をすごした富山高専で定年を迎えるのは不思議な気持ちです。風変わりな私がかこまできたのは、関わった全ての学生たちと教職員の忍耐のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



写真1



写真2

## 27年経っても思うこと

物質化学工学科 後藤 道理



1991年4月に前身の富山工業高等専門学校・物質工学科に異動してきて27年間が経ちました。富山に到着して雪を冠した立山連峰が目飛び込んできた時の感動は忘れることができません。大きさではなく、本当にここは日本なのかと思いました。更に、カッコウが鳴いていたり雉が民家の庭から道路に走り出てきたり、夏には近所の川でホタルが舞っていたり、交通の便はよく買い物も便利、なんと素晴らしい環境が富山にそろっているのかと思ったものでした。また、当時の富山工業高専の雰囲気は、学生の年齢が若いことを除けば大学の持つ雰囲気が強く感じられる学校だと思いました。物質工学科で行われていた研究は、人のために有用な研究に限らず、化学（科学）の面白さを追求する内容もかなり多かった記憶があります。当然のことながら、全員がそういった研究を

行えば日本はダメになってしまいますが、やはり知的好奇心を追求するのも学校でしかできないこととして重要であると思います。物質化学工学科に衣替えした後は、実利追求の色合いが極めて強くなっています。応用分野に力を注ぐこと当然素晴らしいことです。ところが、いわゆる「ばっかり」になると、これはこれで宜しく無い可能性があります。応用研究も基礎研究も両方とも重要であり面白いことを学生さんたちにはちゃんとわかって欲しいものです。

ここから先は後藤研究室に限った極めてマニアックな内容です。私の研究室に所属することになった日に渡し続けてきた資料の文面の一部を以下に記します。所属した学生さん達は懐かしく思ってくれるでしょうか。

**【文面の抜粋】**研究室に配属されたら毎日顔を出して当たり前です（実験せよと言っているのではない）。研究室に顔を出すことの最大のメリットは、「実験の腕を磨く場が与えられた」ということはもちろんですが、そんなことよりも、広範囲にわたる科学の話が飛び交う場（私の研究室の場合は有機化学と生命科学を扱う場）に学生が身を置くことで、多様な知識や物の考え方が耳学問によって自然と身に付くところにあります。また逆に研究室における指導教員の義務の一つは、与えたテーマについてのみ学生と係るのではなく、現在の科学の流れや今後の科学の進むべき方向性、科学の歴史について話をする（話が出来る）ことであると考えます。実際に手を下す研究分野は、あれもこれもと沢山は出来ないのが実情であり、限られた範囲になってしまいます。しかしその分、耳学問により広い視野で科学を見る能力や語るこ

とができる力を身に付けることが必要不可欠であると考えます。私の希望は私の研究室に所属した学生が、このような私の考え方を約一年半の間に理解してくれるようになることです。まあ、だまされたと思って洗脳されてみて下さい。化学は賢くなくても出来るのです。或る程度の知識は必要ですが、大切なことは経験と感です。私の口癖ですが、「経験に裏付けされた感にあたる確率が高くなる」です。先輩によく教わって実験のノウハウを修得し、早く自分で感を働かせ実験が出来るようになってください。

最後にもう一つ、私の持論：科学（化学）は芸術です。美しくなければなりません。美しいものには必ず機能が備わっています（しかし、美しすぎると機能は消えてしまいます→この研究室を出ていくまでに私の持論の意味が分かってもらえれば嬉しいのですが…）。

## 定年退職に当たって

物質化学工学科 高廣 政彦



私は平成6年4月に当時の金属工学科に赴任してから本年で無事定年退職を迎えることになりました。私は普通科高校出身で、大学院時代、神奈川県私立高専の数学担当非常勤講師を務めるまで高専について全く知りませんでした。この経験を通して高専教育のすばらしさを実感し、高専教員への強い希望を抱き続け、できれば高専教員になりたいという夢を抱き続けておりました。しかし大学院修了時点ではその夢はかなわず、指導教官の強い勧めにより石川県庁（県工業試験場）に勤めました。工業試験場時代は中小企業への指導が主な仕事でしたが、ここで指導と教育の大きな違いを見せつけられました。

教育は、例えば後世で誤りであることがわかった事実を教えても、そのことで責任を問われることはない一方、指導はそうはいかない。例として例えば教育では従来冥王星を惑星とし教えてきましたが、現在では惑星からは外されています。一方指導は例えば集団予防接種においけるB型肝炎

感染において、当時は解らなかった問題が後世で明らかになった場合でも責任は取らなければならない。すなわち指導は極めて慎重に事を運ぶ必要があります。かなり責任の重い業務となります。これが負担となり、再び高専教員への道を模索していたところ、本校に赴任する機会を得て夢をかなえることができました。高専赴任後、主にFRPリサイクルや高分子固体の力学的性質について特にノルマ等しがらみのない環境で自由奔放に研究させていただいたと感謝しております。もちろん今日まで幾多の難題に直面しましたが、多くの学生諸君に支えられて乗り越えることができました。とりわけ歴代担任したクラスの学生、赴任以来担当した水泳部部員、卒業研究、専攻科特別研究を通して優秀な成果を挙げてくれた研究室所属学生をはじめとした学生諸君に心から感謝する次第です。最後になりましたが定年退職に当たり、教職員一同ならびに学生諸君のこれからの益々のご健勝とご発展を願う次第です。

## ありがとうございました

一般教養科 星野 朱美



1989年11月に中国上海から留学のため来日し、東京商船大学（現東京海洋大学）大学院で修士の学位を取得しました。その後、大手企業に5年間に勤めました。1996年に国際ビジネス学科（旧国際流通学科）新設の翌年、1997年6月末に会社を辞して、1997年7月に富山高等専門学校（旧富山商船高等専門学校）に、ネイティブスピーカーの中国語講師として着任しました。

中国語を習ったことがある学生は皆が同じことを言います。「中国語は難しいです」や「中国語は大変です」など……。これは事実です。なぜならば、中国語の発音数は非常に多く、殆どが日本語にない発音です。音節は100以上あり、その上、一音節に四つの声調があって、要するに全部で400以上の発音があります。学習する側には発音するのは大変難しく感じられ、聞き取りも大変困難です。教える側も簡単ではなく、どうすれば、学生たちが6か月間に400以上の音節を正しく発音でき、さらに発音を聞いて、発音記号ピンインを書けるようになるか、常に悩んでいました。そのため、3年間かけて上海復旦大学に通って、中国語教育法などを勉強し、外国人に教える中国語教師のライセンスも取得しました。更に「中国語音声研究所」という中国の国立音声研究所で、中国語の音声研究の専門家の先生たちと一緒に外国人向けの中国語の発音の教授法を研究していました。2004年に東京海洋大学において、中国語の発話の音声学的研究で博士（工学）の学位を取得しました。今も国内外の音声研究の専門家

と一緒に、中国語の発音や音声認識などの研究をしています。

教育目標としては、学生たちが正しく発音ができ、日常会話を聞き取れ、コミュニケーションが取れるようになるよう取り組んで来ました。授業中に学生たちに話せる色々なことを工夫し、マンツーマン指導をしたり、年に3～4回face to faceの口述試験をしたり、学生の皆さんの努力の賜物ですが、富山県の中国語スピーチコンテストで毎年第1位を獲得し、富山県代表として全国大会に推薦され、全国大会で入賞された学生さんも少なくありません。とても誇らしく思っています。将来、今まで学習した中国語を活かして、就職やキャリアアップなどの切り札にすれば、仕事の幅を広げることに役立つことを目標としていました。

研究ではルチメディア技術を用いた中国語発音教育のコンピュータ援助指導システムの開発のため、中国語の発音を分析し、発話の特徴や評価法などを提案しました。更にそれらの研究結果を用いて、発音訓練用のシステムを開発しました。毎年、国内学会や国際学会で研究発表してきました。お陰様で5回科研費に採択されました。それらの実績は皆様のご協力とご指導が無ければやってこれなかったと思います。

この度、2024年3月をもって退職になります。着任してから27年になり、この期間を通して教育と研究に取り組むことが出来て、身に余る充実した時間でした。本当に有難うございました。



2022年第39回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会  
国際ビジネス学科才記亜子学生入賞



中国語授業

## 学生から学ぶ

電子情報工学科 水本 巖



### 「和解寮の思い出」

私が本校に着任したのは、旧富山商船高専（現射水キャンパス）で、全寮制だった名残がまだ色濃く残っていた時代でした。自分も、学校は違えども全寮制の男子校で学んだこともあり、懐かしくもありました。その当時の和海寮では上下関係が厳しく、1年生の規則違反は、集団責任で学生が朝ランニングをさせられていました。私としては上級生が率先垂範かつ模範と一緒に走っておらず、この辺に物足りなさを感じていました。事後この熱い思いが上に伝わってしまったのか、寮務主事の任を仰せつかりました。当時一緒に寮の管理に携わっておられた清水先生（現富山県立大学）から、学生寮長を沼津高専の寮に研修に行かせる提案がなされました。当時の沼津高専の寮は、寮務主事指導の下、実質は学生の自主自律運営でした。低学年は全寮制で約400人+上級生の寮生併せて600人程の学生を、教員2名の当直で廻していたと記憶しています。一番の特徴は、夜8時になれば学習開始で、学生自ら携帯電話の電源を切り学習体制に入ります。消灯は自動消灯ではなく、自ら意思で電気を消す。点呼も学生が行い当直教員に報告する。各寮棟には、学生寮長およびその補助スタッフがおり、基本学生が規則等を立案、寮務主事の許可・裁可を得て運営する。学生寮長には、実質的な権限が与えられる。実際、運営に寄与する学生も、ある意味責任が伴うので大変です。射水キャンパスから研修に行った学生のカルチャーショックは大きく、少なくとも「同じ高専でありながら、こういう世界もあること」の認知はできたみたいでした。和海寮だと、当時の自習巡検と言え、返事をしてその後は体育館に自主トレに行くのが常識でしたから、同じ高専生

が「携帯電話の電源を切り、自ら机に向かう」は信じられない世界だったみたいです。書き方は悪いですが、私も「寮」とは、強制力もしくは威圧行為？で管理する世界しか知らなかったのも、自主自律で運営できることは、まさに目からうろこでした。今、射水の和海寮で1年生の勉強会と、寮長との懇談会である水曜会が続いているとのことですが、これは沼津高専との交流のなごりだと思えます。

### 「留学生の楊君の思い出」

2F実験室で中国からの留学生 楊君がしょんぼりしていました。理由は長岡技大の奨学金に落ちてやむなく工学系で無い学部編入学することのこと。私は、その時ぼそっと「じゃあ大学院は、工学系の所に行けばいい。」とあくまでも慰めの気持ちで言いました。その後、電磁気や電気回路の演習書を貸して欲しいとか、割と煩雑な依頼が来ました。その後返って来た本には、メモ書きが直接書きこんであり閉口しました。ただ、その時添えられていた手紙には、先生のアドバイス通り東大大学院に受かりましたとの報告がありました。今は、北京交通大学 楊中平教授です。

### 「稲積佐門同窓会会長」

寄稿をよせさせて頂いた本同窓誌の稲積同窓会会長も、私が担任をさせて頂いた一人です。当時の彼を知る者とするれば、まさか市議会議員の先生になり、同窓会の為に骨を折る人材とは、学生の可能性はまさに測り知れません。

本校も今は、工学系から文系、商船系で構成されている全国でも唯一無二の総合高専に変革しています。これからの時代を担う本校の益々の発展を願っています。大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 高専生活を振り返って

電子情報工学科 椎名 徹



1976年に富山工業高等専門学校電気工学科に入学し、大学編入学等を経て、1987年4月母校に赴任、合計42年間お世話になりました。

助手として赴任した頃は、新任教員が電気製図の授業と学生実験を受け持つのが慣習で、私も両方を最初に担当しました。ほとんどの実験は、私が学生の頃に学んだ内容と同じものでしたが、着任後2年して電子回路実験を担当することになり、実験室の改修と実験内容の一新を図りました。ブレッドボード上に回路を構成し、特性測定する実験は、放課後遅くに終了することもありましたが、学生一人一人と直接交わる良い機会でした。

大学院生の頃、講義科目「電気回路」のTAとして学部生に回路演習を教えていました。講義を担当する教授陣とTAの大学院生が回路演習の準備を綿密に行い、学部生の学習意欲の向上、学問習得力のアップに努力しました。高專着任から数年後、電気回路、電気磁気学や電子工学の基礎を学生に教えることになりましたが、内容の絞り込み、原理・用途の解説や暗記方法の工夫、演習など、そのときの経験が大変役立ちました。

卒業・特別研究は、私自身の研究生生活の礎であり、卒研生、特研生との研究合宿、学会での研究成果発表は楽しい思い出です。約140名の卒業、修了生が企業で活躍し、進学先での飛び級、学会賞受賞等の便りが私の宝物です。

4、5年生の担任業務は大変でしたが、進路決定の瞬間まで立ち会うことは、教員冥利に尽きるも

のでした。富山高専統合の2009年に電気工学科から電子情報工学科に配置換えとなりました。統合完了の2014年に射水Cへ教員室が移転し、同時に電子情報工学科4年の担任となりました。統合により射水Cへ移動した教員は私だけで、初めて体験する行事や異なる校務運営（当時）等に戸惑うばかりでした。電子情報工学科ならびに他学科の諸先生には優しく迎えて頂きました。勝手のわからないままに担任を務めることに必死でしたが、学生たちが私を一員のようにカッターレースや北斗祭に巻き込んでくれました。個性的な学生が多く、出席日数の危うい学生や学生補導等の苦労もありましたが、明るく活気のあるクラスとの日々は、射水Cでの教員生活の素晴らしい始まりとなりました。

年々進化・発展する高専教育システムの中、優れた学生（後輩）が輩出されることを願っております。また、富山高等専門学校の卒業生、修了生の益々のご活躍を祈願しております。



# 近況報告

卒業学科の「略称」と「期」については同窓会HPを参照ください。

## 制6 佐竹 大樹

同窓会の皆様、初めまして。2020年に電気制御システム工学科を卒業した佐竹大樹です。

私は本科を卒業後、専攻科を修了いたしました。私は東北大学の大学院に進学しました。高専の研究室で研究していた放射線・原子力分野について深く勉強するため、量子エネルギー工学を専攻しました。そんな2年間の大学院生活も終わりを迎え、この春から私も社会人の仲間入りをさせていただきます。思い返してみるとあつという間の学生生活でした。

高専に入学したのは、今から9年も前のこととなりますが、昨日のように鮮明に思い出すことができます。中学校までの義務教育を終え、

普通科の高校ではなく、専門性の高い世界への一歩を踏み

出した日でした。専門科目の授業に加え初めての90分授業や、単位制による進級等、大学に近い環境での勉強の日々はどれも新しく、あたたかく過ぎていったことを覚えています。あまり褒められた生徒ではなかったのでテスト勉強やレポート課題などを徹夜で仕上げたこともあり。それでも友人たちと5年間を過ごし、かけがえのない時間であったと思います。今も

当時の友人たちと遊びに行くほど仲もよく、高専での時間が私たちの絆につながっていると思います。

少し話は変わりますが高専に入学して一番大きかった出来事は研究室配属であったと思います。高田英治先生の研究室に入り放射線についての研究を行いました。初めての研究生活は、大変なことも多かったですが、研究者・社会人としての心得を早くから学ぶことができました。また、



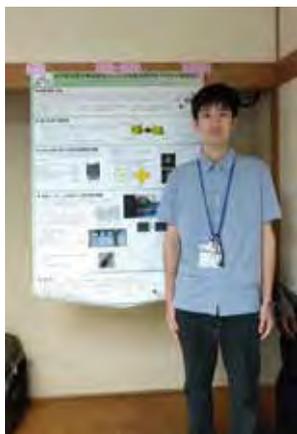
応用物理学会参加



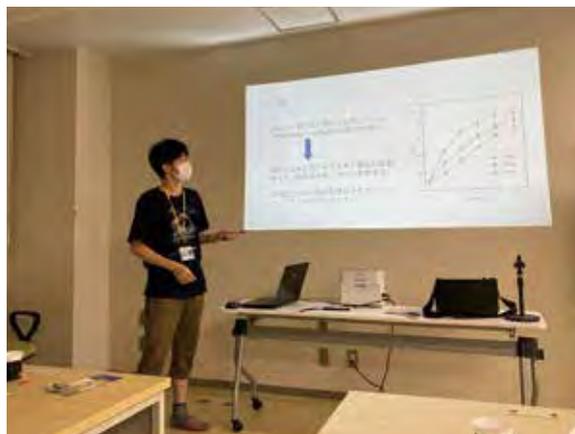
チェルノブイリ記念



六ヶ所原燃PRセンター



研究会参加



研究室で成果報告の様子

本科5年生の時には、ご縁がありウクライナのチェルノブイリ原発へ見学に行かせていただきました。今は、ロシアによる侵攻によってかなりセンシティブな場所となってしまいましたが、世界における原子力の歴史に触れた良い経験がありました。その後も専攻科へと進み、研究を続け、高エネルギー加速器研究機構での外部実験や研究会での発表など様々な経験を得た後、東北大学へ進学いたしました。東北でも原子力を専攻したことや、就職先に原子力分野を選んだことからこの研究室での経験が私の人生におけるターニングポイントであったと思います。

東北大学ではホウ素中性子捕捉療法に関す

る研究を行っており、仙台での実験のみならず、青森県の量子科学センターへ出張しての実験、応用物理学会への参加等、多くの研究活動に勤しんできました。修士という研究室でも責任ある学年となり自身の研究のみならず、研究室運営、他の実験補助等の経験を積むことができましたし、この2年の修士生活はさらに私の力になったと思っています。

春からは原子力関連の仕事に携わらせていただくことになっており、研究室で出会った原子力が就職まで直結することとなりました。7年間高専で学んだことが社会に出てからも生かすことができるよう精進していく所存です。

### 国3 勝島（旧姓 河尻）歩美

同窓会会員の皆さま、こんにちは！国際ビジネス学科3期生の勝島歩美（旧姓：河尻）と申します。高専を卒業してから、約7年がたとうとしていますが、今、私が『自分らしく、心地よく』働けているのは、学生時代の経験や学びのおかげであると、心から感謝しています。

私は卒業後、富山県庁に入庁し、2023年5月まで約6年間行政職員として勤務しました。現在は、「自分らしく心地よい働き方ができる人を増やしたい」という想いから、ウェルネスコーチとして、自己実現したい方の伴走支援をしています。また、オンラインでの中国人向け日本語レッスンの提供やサポートキーボードな

どのお仕事もしています。まさか自分が公務員を退職して、こんなに色々なこと

に挑戦する人生を歩むとは想像もしていませんでしたが、学生時代に学んだ「中国語」や「挑戦することの大切さ」のおかげで、私の人生は大きく変わったと感じています。

私は入庁後2年が過ぎた頃、中国遼寧省への職員派遣に立候補し、県職員の代表で、遼寧省政府国際交流員として、半年間中国で勤務しました。立候補する前は、周りの優秀な職員と比べてばかりで自信をなくし、立候補を諦めようと思ったこともありました。しかし、「挑戦してみなければ分からない！」と思い、学生時代に中国語を学んだことや、学生生活の経験を伝えたところ、見事に希望が叶いました。中国での生活は非常に刺激的で、世界各国の200名以上の方々とは交流する機会に恵まれました。また、日本語を学



中国遼寧省の大学における講義の様子

ぶ大学生の皆さんに、日本文化についての講義をすることもあり、自分の言葉で何かを伝えたり、表現したりすることにやりがいを感じました。

帰国後は、国際課で中国との友好交流に関する事業に携わっていましたが、今後のキャリアについて考えた時に、自分の能力や好きなことを活かして、自分らしく仕事がしていきたいと感じるようになりました。悩んだ結果、公務員を退職し起業することを決めました。退職直後は、オンラインで中国人の日本就職支援を行いました。この仕事は、中国で知り合った方とのお縁のおかげで始められた仕事でした。あの時、挑戦することを決断できたおかげで、素敵なお縁にも出会うことができました。

今私が思うことは、「挑戦すれば可能性は無限大」だということです。私たちは、気がつく自分ではなく、周りの声や評価を優先して行動してしまうようになります。様々な経験のなかで、周りと比べて自信がなくなったり、本当にやりたいことに挑戦する勇気がなくなったりします。でも、行動や考え方1つで、自分の人生は変えられるということを伝えたいです。私は今、自分らしく、ウェルネスコーチや日本語の先生、音楽活動ができていることに、幸せを感じています。今後も、これまでの経験を活かし、日々の働き方に悩んでいる方々が、自分らしく心地よい働き方を叶えていけるような支援活動をしていきたいと思っています。

## 国7 川口 侑輝

2021年に国際ビジネス学科を卒業した川口侑輝です。卒業後は、県外の大学に編入して教員免許状を取得し、昨年4月から高校の英語教師として働いています。

大学では、通常の授業に加えて、4年間の教職課程を2年で修了しなければならず、忙しい日々を過ごしていました。しかし、今は大学時代のさらに3倍忙しい毎日、家に帰ったらご飯を食べてそのまま爆睡してしまいます。教員の仕事は授業以外にも多岐に渡っており、高専の先生方が自分たちのためにどれだけ労力を割いてくださったのかを身に染みて実感しています。

教員生活は新たな発見の連続で、とても充実しています。授業では、自分が英語を勉強していたころを思い出しながら、どんな風に説明すると分かりやすいか、どんな活動を行うと印象に残りやすいかなど試行錯誤を繰り返してします。この1年だけでも、新たな文法事項を教えるたびに、生徒の英作文がどんどん良くなって



いるのを実感しており、やりがいを感じています。

部活動では、自分は学生時代に剣道をしていましたが、現在は弓道部の顧問をしています。同じ武道でも競技に対する心構えが異なっていて、とても勉強になります。生徒との距離も近く、子どもたちのフレッシュなエネルギーを浴びて自分が高校生に若返った気分になれるのも、この仕事が好きなポイントです。

来年からは今以上に多くの仕事を任せられるようになると思いますが、生徒との関わりが増えるいいチャンスだと考え、自分自身の成長にもつなげられるよう努めていきたいです。

国7 宮下 日向子

理事就任のご挨拶

2023年度より、同窓会理事に就任致しました、国際ビジネス学科7期生の宮下です。本科を卒業した後、専攻科へ進学し、2023年の春に東京の会社へ就職しました。元々、富山での就職も視野に入れておりましたが、競争のある環境で揉まれ成長してからの方が、貢献度が高いのではないだろうか、と考え、建設業界の営業職に飛び込みました。しっかりとした基盤の事業がありながら、第二創業期として分社化した所へ配属になり、社会人としての基礎、営業のイロハを学びました。業界や会社を問わず活用できる話し方・聞き方1つから、目的意識・数字の意識、分析力などを先輩や上長からご指導いただき、貴重な経験になったと思っています。現在は、入籍を機にUターンし、地元メーカーで勤務しています。2月に転職しましたので、まだまだ業界や会社知識を学びながらの日々を過ごしています。



学生時代は、高専という環境を謳歌した生活を送らせていただいたと思っています。友人や先輩、教官方に恵まれ、学業はもちろんのこと、部活動に寮生活、学生会、アルバイト等、無駄な時間はどこにも無く、全力でやり切ったからこそ得られた経験や学びが多かったと自負しております。中でも部活動は最も力を入れた活動でした。所属はバスケットボール部ですが、初心者からのスタートだったので、経験者との差を埋めるために必死に練習していました。3年次以降はキャプテンを務めさせていただいたので、自分の技術的なスキルアップだけではなく、チーフをどうまとめるのか、部活動としてどう運営していくのか、どう後輩を指導すべきか、ということで四苦八苦していました。卒業論文と特別研究は、人材育成をテーマにしていたので、当時から私の興味関心は変わらなかったのだと思います。

在校生の皆様にも是非、何かを成し遂げる、やり切る経験をしていただけたらと思います。勉強でも遊びでも、突き詰めれば得られるものが必ずあると思いますし、自分と向き合い、何が自分にとって大事なのかという「軸」を見つけれられると思っています。長くて短い高専生活をどうか謳歌してくださいませ。



## 同窓会事務局からのお知らせ

### 新事務局員紹介

### 事務職新任のご挨拶

篠井 たか子

この度、国立富山高等専門学校同窓会の事務職員としてお世話になることになりました篠井たか子と申します。歴史ある富山高専の同窓会でお仕事をさせて頂けることになり、大変光栄に存じます。また私の娘も現役生として富山高専で学んでおりますので、同窓会の運営に携わることができるとは、思いもよらない喜びでございます。

富山高専の同窓会は、卒業生の皆様が互いに支え合い、学び続ける場として大切な役割を果たしているとお聞きました。富山高専同窓会が、卒業生の皆様が卒業後も変わらぬ絆で結ばれた、温かいコミュニティであり続けるよう努めてまいります。

また、これからの同窓会活動が、皆様にとって有意義かつ楽しいものとなるよう、関係者の方々と協力しながら、円滑な運営のサポートに尽力して参ります。皆様の温かいご指導とご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

本校のさらなる発展と、同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



### 会員の皆様へ

### 名簿管理システムの運用開始について

昨年度より本同窓会およびほんごう会、北斗会のメンバーによる「名簿統一化WG」で検討した方針を受けて、名簿管理会社として(株)アーティスティックスを選定・契約し、本年6月末にシステムの運用開始を目指し準備を進めています。

名簿管理システムは、富山高専同窓会ホームページ<https://nc-toyama-dousokai.jp>から、アクセス可能です。また、システム内の会員個人の各項目に関する公開・非公開については、会員自身で設定が可能なシステムです。

準備ができ次第、各会員に対し、名簿管理システムへログインするためのID/PWを郵送する予定です。

## 編集後記

同窓会報Vol.4をお届けします。令和5年はロシアのウクライナ侵攻に加えイスラエルのガザ地区への攻撃が始まり、令和6年こそは平和で平穏な年となりますように、と祈りながら迎えた元旦に能登半島地震が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

私が住む氷見市も断水が続き、翌日給水のために車で本校射水キャンパスに向かいました。途中の伏木では給水車に並ぶ長蛇の列、新湊漁港沿いの通りでは地割れや液状化で陥没した路面を目の当たりにしながら、Uターンを繰り返してようやく学校にたどり着きました。射水キャンパスでは地震発生直後に多くの近隣の住民の方々が津波に備えて避難されてきたと聞きました。本校が卒業生だけでなく地域の方々からも身近な存在となっていることを実感しました。

本会報で母校と卒業生の近況をお伝えし、いつまでも卒業生の皆さんが母校を身近な存在に思えるようになればと思います。

E機関35 水谷淳之介 記